

白幡天神社

もと白幡神社といい。祭神は武内宿禰です。明治4年、菅原道真(天神様)を合祀してから白幡天神社と称する。



勝海舟が書いた扁額

社神幡白

柴田是真の句額
(市指定文化財)

将門調伏に功績をあげた菅野夫妻の墓標がある。

御代の院

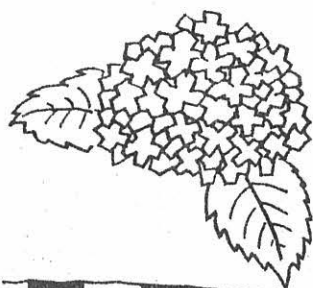


永井荷風終焉の地

永井荷風が市川に移ってきたのは昭和21年1月のこと。はじめは、菅野その後昭和32年3月ハ幡に転居。昭和34年4月30日。彼はいつもどおり京成ハ幡駅の近くの店でカツ丼を食べて家に帰り、七くなっている。市川周辺を描いた作品には、「来訪者」「或夜」「羊羹」「蛙道」「にぎり飯」「買出し」「葛飾土産」などがあります。

幸田露伴終焉の地

幸田露伴が市川に移り住んだのは彼の最晩年であった昭和21年1月のこと。菅野にきた頃の露伴は、歯はガクガク、白い髪はのび、頭は周りに少し白髪を残して禿げており、目は白内障だった。そして約1年半を市川で過ごし、昭和22年7月30日菅野の蝸牛庵でその生涯を閉じた。露伴の死後、娘の文は、「雑記」「終焉」「葬送の記」「菅野の記」などを発表している。



至市川



俳人 能村登四郎氏

昭和14年から53年まで、旧制市川甲学(現市川高等学校)に勤務。

昭和14年、水原秋桜子主宰「馬酔木」

に入会。第3回馬酔木賞をはじめ第5回現代俳句賞など数多く受賞している。

俳誌「沖」を創刊主宰している。

—市内にある句碑—

市川市営霊園(昭和40年建立)

じゅんさい池緑地(昭和60年建立)

八幡亭庭内(ハ幡)(平成4年建立)

国府台スポーツセンター(平成10年建立)

—生前はハ幡在住—

不動院

本尊の不動明王は、天慶2年平将門平定のため寛朝僧正がこの地に安置したもの。

菅野交番

市川柏線

東菅野1丁目

くすのきの街路樹

(市民会館横)

川上善六翁碑

市川の特産品である「梨」の栽培を広めた人。昔、ハ幡は市川砂州上にあり、その砂質地を利用し、苦心を重ね「ハ幡梨」を特産品にした。

続

商業会通り

古の美堂
勝鹿堂

ハ幡小学校
永井荷風終焉の地

早野
人形サロン

奥野木学園

ハ幡神社へ

至菅野

京成ハ幡駅

京成ハ幡駅前

花に
かこまれた家

ボランティア
市民活動
センター

ライブスリン

市川市福祉公社

百貨店

市民相談室

国道14号

駐輪場

都営新宿線
本ハ幡駅

JR 本ハ幡駅

至新宿

健康増進センター
消費生活センター
市川エ7エム